

あらためて聞いてみると面白い

「落語 小噺（こばなし）」



噺の最後に、これまでの内容をひっくり返してしまう笑いを含んだ噺で、「オチ」といわれる締め言葉が巧みな話芸を「落語」といいます。

なんか、あらたまって説明すると堅苦しい感じがしますが、気楽に聞いて、楽しめる一般の娯楽の一つとして、発展してきた芸能で、現在では広く親しまれている芸ですね。

伝統芸能の歌舞伎などとは違い、落語は噺家の身振りと手振りのみで進めていきます。

一人で何役もの登場人物をこなし、状況説明をも演じます。衣装や舞台装置などを極力使わず、演者の技巧と聴き手の想像力で噺の世界が広がっていく、という、素晴らしい芸能です。



落語の歴史

落語の始まりは、室町時代末期から安土桃山時代にかけて、戦国大名のそばに仕え、話の相手をしたり、世情を伝えたりする「御伽衆（おとぎしゅう）」と呼ばれる人たちでした。

その中の一人、安楽庵策伝（あんらくあんさくでん）という浄土宗の僧侶は、豊臣秀吉の前で滑稽なオチのつく「噺」を披露してたいへん喜ばれました。

江戸時代に入ると、園芸小屋で木戸銭をとって有料で噺を聞かせる人物が登場します。



大阪では「米沢彦八」、京都では「露の五郎兵衛」、江戸では「鹿野武左衛門」などが活躍しました。こうして、現代の私たちが知っている「寄席」が誕生しました。

大阪では、毎年夏に行われる「彦八まつり」は有名ですね。

本格的な古典落語は、少々話が長うございますので、ここでご紹介すると、読むだけでも疲れてしまうかもしれません。というわけで、今回は短めに「小噺」を、お届けいたします。それでは、しばらくの間お付き合いください。

【オレオレ詐欺】

「ばあちゃん、オレだよ、オレ！」

「あら、しばらく振りに電話かけてきてどうしたんだい？」

「いや、車で事故ってさ。相手に怪我させちゃって、
慰謝料と治療費で300万円を今日中に払わないといけないんだよ。
お金貸してくんないかな？」

「あら、それは大変！ そしたらすぐ振り込みに行くから
ちょっと待ってて。」

(10分後、銀行にて)

「銀行着いたわ。
振り込み先の口座教えてくれる？」

「ああ、〇〇銀行の△△支店の123456だよ



(婆ちゃん、通帳を広げた所で、)

「あら？ あなたもしかしてオレオレ詐欺ね！」

「いやいや違うよ！ オレだよ」

「いや、絶対そうだわ。



だって孫が男だったのは去年までだもの。

手術費用を半分出してあげたの忘れてたわ」

【食い逃げ】



「食い逃げよー！ 誰か捕まえて！
あなた、大変よ。食い逃げだわ！」

「いいよ。追わなくて。」

「なんでよ！ あたし達のお店、ただでさえ潰れそ
うなんだから、あんなの逃しちゃダメよ！」

「だから、追わなくていいんだって」

「あなた、店がどうなってもいいの！？」

「ああ、牡蠣フライが少し傷んでたからな。
通報したらこっちが捕まるかもしれねえ」



【物忘れ】

「先生、最近物忘れが激しくて困ってるんです」

「そうですか、それじゃあ毎日通って私に千円ずつ渡してください。
まあ、貯金 だと思ってくだされば。
忘れた頃に一気にお返ししますよ。
それだけで治りますよ」



「え？ たったそれだけで治るんですか？」

「はい。だって千円が気になって物忘れしないでしょう」

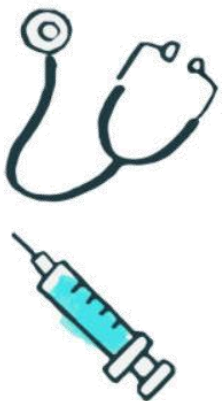
「あ、ああ、なるほど！ ありがとうございます」

「あの患者もバカだな、まんまと引っかかっているよ。
忘れるまでどんどん溜まっていったら全部俺のもんになるのに」

(2週間後、)

「あの一、先生、最近物忘れが激しくて困ってるんです」

「そうですか(シメシメ)。それじゃあ今日から毎日通って千円ずつ私に渡してください。
さい。



忘れた頃に一気にお返ししますから。
千円が勿体なくて忘れないでしょう。
それで治りますよ」

「ああ、なるほど。ありがとうございます！
あっ、それじゃあ今日までの分全部返してもらえますか」

「え？ いやいや、だって今までの支払い分なんか覚えてないでしょう」

「やっぱり。今まで先生がお金取ってたんですね！
どおりで最近お金が無くなると思った。
物忘れは激しくても、
あなたがヤブ医者だということだけは忘れなかったんです」

人に物事を伝えるときに「言葉」を使いますが、言葉の組み合わせ方ひとつで、「正確に。」あるいは「何となく。」情報を伝えることができますね。落語は、言葉というデータを扱う高度な芸能の必つだと思います。



以上、落語のご紹介でした。

コンピュータウイルスに感染したかな？ と思ったり、
コンピュータの動きがおかしい場合お気軽にご相談ください。